四国森林管理局 森林技術・支援センター

次世代につなげる森林づくり

NO.１９

平成 27 年 11 月 12 日

★「久万林業祭り」に参加！「シカ囲いわな」等をＰＲする。

◆十月十七（土）、十八日（日）、愛媛県久万高原町において恒例の「久万林業まつり」が開催され、今年も主催者からの要請もあり、「シカ囲いわな」の設営、シカ被害の状況・その他技術開発課題のパネル等を展示し紹介をしました。

◆この「久万林業まつり」は、今年で第四十五回を数え、多くの出展・催しコーナーがあり、例年大勢の方々が来場されています。

◆センターの展示内容は、「ニホンジカ被害防除用資材展示」としてパンフなどで紹介してもらっています。会場では、大勢の方が来場され、興味津々と眺めては質問などをしていました。

◆昨年は、シカよりイノシシ被害が多いと言うことで、「イノシシわな」と勘違いされる方々が多かったのですが、今年は町内でも被害が出始めており、皆さんの関心も高く熱心に見学していました。二日間にわたり、シカ被害の深刻さの理解を深めると共に、当センターの技術開発に興味を持って頂き、普及につながると期待しています。

来訪者興味津々！

会場の看板

質問？ワナの値段は？

パネルの展示

◆平成二十七年度 森林総合監理士育成研修事業「技術者育成研修四国ブロック」及び「実践研修四国ブロック」を開講する。

◆将来の森林総合監理士を育成するため、四国ブロックでの「技術者育成研修」及び「実践研修」を実施しました。

◆「技術者育成研修」は、森づくりの理念と循環的な木材生産の基礎的な知識・考え方についての講義を中心とした「中央研修」、構想力を身に付けるための実習・演習を中心としたブロック研修となっています。

◆今年度は九月二十九日～十月二日の四日間で、研修生は、十八名（県職員十二名、国有林職員五名、法人職員一名）で高知市の「オリエントホテル高知」を主会場に実施しました。

現地で事業計画の構想

会場内での実務講習

局長と研修生の皆さん

森づくり構想実習

◆「実践研修」は、実践的活動に必要な知識・技術を補強することを目的に地域のフィールドを活用した現地検討及び討議等を通じて習得を図る研修内容となっています。

◆今年度は、十月二十七日～二十八日の二日間で、研修生は、四国四県はもとより、大阪府、和歌山県からの参加者もあり、総勢二十名（県職員十四名、国有林職員六名）で、局二階大会議室を主会場に実施しました。

研修まとめの発表

ストックヤードの視察

実践研修・講義の様子

林野庁川島氏との集合写真

木質バイオマス発電施設

皆伐事業地の搬出システム